

地方創生加速化に向けた取り組み



市では、目指すべき政策目標の「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」の選ばれるまちづくりの実現のため、人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域経済を維持していくことを目標とした「舞鶴版地方創生」の推進に努めています。シリーズ市政の「今」。第30回は、舞鶴版地方創生の実現に向け、これまでの基礎固めの実績をさらに加速させる地域活性化の取り組みについてお知らせします。

地方創生加速化に向けた取り組み

国では、昨年12月18日に「一億総活躍社会の実現に向けた緊急対策」に基づいた「地方創生加速化交付金」の創設など、平成27年度補正予算が閣議決定され、地方版総合戦略に基づき各自治体の取り組みへの支援策が示されました。これは、地方における安定した雇用創出や地方への新しい人の流れ、まちの



「一周波数77.5メガヘルツが開局。民間主導で立ち上がった。市民の市民による市民のための放送局」として運営されます。市としても、このコミュニティFM局を身近な情報発信ツールとして学校情報や市政情報、地域イベント情報などの放送と併せ、防災情報の伝達手段の一つとして活用してまいります。また、京都市内のFM局との連携で京都市内へ、またインターネットを経由した全国への情報発信も可能であることから、市内外へ広く本市のPRを図っていく予定です。



活性化など「目に見える地方創生」の実現に寄与する効果の高い事業を対象に支援するもので、本市でも、昨年5月に策定した「舞鶴市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいた地方創生事業に活用していくこととしています。今回は、その交付金に関する事業を紹介いたします。

移住定住プロジェクトの推進

府北部5市2町で構成される「京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会」は、単独では人口10万人未満の市町が、さまざまな分野で連携し、30万人都市を上回るポテンシャルを有した魅力ある地域として、相互の連携と役割分担により事業展開していま

舞鶴のお茶を国内外にPR

戦後、主に由良川沿岸で栽培され、良質なお茶として全国で評価されている舞鶴のお茶。昨年の全国茶品評会では、かぶせ茶の部門で、舞鶴市が4年連続の「産地賞」（団体の部1位）を受賞しています。また、昨年12月には、議員提案による舞鶴のお茶の振興と普及に向けた条例が制定。市や生産者、市民の役割などを定めることにより生産振興と普及促進を図ることを目的としています。



また、クルーズ客船の寄港時にお茶の振る舞いや多言語に対応したパンフレット・ノベルティーの配布、公共施設での新茶の試飲などを実施

す。府北部地域連携都市圏は、特色ある資源を有効に活用し、圏域全体の活性化を図る取り組みを進めている一方で、全国的な知名度が低いことや空き家バンクの物件数が少ないなど、移住希望者が他地域に流出する課題も抱えています。このため、府北部地域連携都市圏では、広く「移住先進圏」としてのPRを行うなど、各市町の個性豊かで多様な移住先、働く場の選択肢を提供し、受け入れ体制の整備・充実を図ることで府北部地域への移住・定住を促進していきます。

移住定住に「コミュニティFM局の活用」

先月18日、舞鶴市の新たな情報発信源となる「FMまいづる」が放送開始

し、舞鶴市が全国的に評価された良質なお茶の産地であることを国内外の観光客へ発信していきます。

ブランド水産物の生産拡大と販路開拓

恵まれた本市の水産資源の生産拡大・販路開拓と6次産業化（※）の取り組みを推進するため、観光とタイアップを図りながら、丹後とり貝の販路拡大や育成若がき稚貝の供給安定化、なまこ加工品の商品開発など、ブランド水産物の安定供給を推進していきます。



さらに、首都圏で舞鶴の食の魅力を発信するブランド戦略を展開。ブランド水産物として付加価値を高めることで地域ブランド力の向上と本市への観光誘客を増やす取り組みで、地域経済の活性化を目指していきます。

北部移住・定住プロジェクト

◆府北部5市2町の連携により、個性豊かで多様な移住先の選択肢を提供するとともに、「移住先進圏」としてのPRを行う。

移住先進圏としてのブランディング(PR)

- ◆北部移住ブランディング調査研究
- ◆北部地域移住者紹介冊子作成
- ◆映像(DVD)作成

プロジェクトの目的

個性豊かで多様な選択肢

- ◆空き家見学ツアー
- ◆田舎暮らし体験ツアー
- ◆ローカルインターンシップ事業
- ◆大人の田舎留学
- ◆5市2町空き家バンク創設
- ◆移住相談情報などの共有に向けた調査研究

執行体制の整備・充実

- ◆移住者受け入れのためのHow-To講座
- ◆移住相談共同窓口の創設などに向けた調査研究
- ◆事業者と連携した空き家供給体制の構築に向けた調査研究

赤れんがパーク誘客の促進

昨年度から防衛省の補助事業を活用し、本市の観光戦略拠点である「赤れんがパーク」周辺一帯を「赤れんが」「海・港」の魅力発信する日本有数の一大交流拠点とするための取り組みを進めています。

また、本市が目指す数値目標「交流人口300万人、経済人口10万人」都市・舞鶴の実現のため、本年度もサマーイルミネーションや赤れんがイベントを開催。また、赤れんがパーク駐車場サイン整備など、本市を訪れる観光客に優しい環境整備とインバウンド対策を推進し、さらなる誘客と観光消費の拡大を図っていきます。



海の京都DMO 広域観光マーケティング

府北部5市2町の総力を結集し、観光によるまちづくりを効果的かつ強力に推進することを目的に、府北部地域連携都市圏の事業として「(仮称)海の京都DMO(※)」を設立予定。広域的なマーケティング・顧客満足度調査に基づき着地型・体感型商品などの開発や地域資源の発掘で、府北部地域の連携による戦略的な観光プロモーションを実施し、外国人観光客も含めた交流人口の増大、観光産業による地域活性化を図ります。今後も、人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域経済を維持していくことを目標とした「舞鶴版地方創生」のさらなる推進を図ります。



※6次産業化…一次産業としての農林漁業と、二次産業としての加工・製造業、三次産業としての小売・サービス業などの事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組みのこと。
※DMO…Destination Management/Marketing Organizationの略。地域が一元となり、戦略的に観光地経営を担う舵取り役の組織のこと。